

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会(第10回)議事要旨(案)

## 1 日時

平成24年12月12日(水) 15時00分～17時25分

## 2 場所

中央合同庁舎2号館 総務省10階 1001会議室

## 3 出席者(敬称略)

## (1) 構成員

藤原 修(主査)、安藤 真(主査代理)、雨宮 不二雄、井上 正弘、篠塚 隆、  
清水 久恵、多氣 昌生、塚原 仁、林 亮司、堀 和行

## (2) オブザーバー

栗岡 辰弥、佐竹 省造、田辺 一夫、平伴 喜光、前川 恭範、松本 泰、  
吉岡 康哉

## (3) 事務局

丹代 武(電波環境課長)、丸尾 秀男(電波利用環境専門官)、  
臼井 伸幸(電波監視官)

## 4 議事

(1) 前回の議事要旨(案)について修正意見があれば12月19日(水)までに事務局あてに連絡することとして承認された。

(2) CISPR バンコク会議審議結果及び今後の進め方等について、藤原主査、各CISPR作業班の主任・主任代理及び関係者より資料10-2に基づき説明があり、以下の質疑があった。

藤原 主査: CDNE法と10m法による測定結果が著しく異なるということが報告されているが、同じEUTに対し、どちらの方法が厳しい結果となるのか。

雨宮構成員: 測定周波数によるので、断定的には言えない。

篠塚構成員: CDNE法で合格したものが、10m法では不合格というものもあり、またその逆もある。

多氣構成員: GENELECでPLTの放射妨害規格が採択され、ドレスデン協定によってCISPRで審議再開がなされるかもしれないということだったが、まだ動きはないのか。

雨宮構成員：CISPR/I の議長は、国際規格を作った方が良いという動きがあれば、またいずれかの国が NWIP を提案する動きがあれば検討を開始することがあり得るが、そうでない場合は検討を開始することはないと話している。

多氣構成員：その場合、CD 文書からの検討ではなく、いきなり CDV 文書での検討となるのではないか。

雨宮構成員：GENELEC の規格を各国へ適用となると、使用環境や電源事情等の問題もあるため、議論はそう簡単ではないだろう。

多氣構成員：CISPR/D の報告の中で、米国自動車技術会 (SAE) の規格で、電気自動車の電界・磁界を測定すると言われていたが、両方の測定をするのか。

塚原構成員：電気自動車から 3m 離れた距離にて、モノポールアンテナ及びループアンテナを自動車の四隅に立てて測定する。この 30MHz 以下の放射について、米国では SAE 規格であるが、中国では法で規制されている。そういった背景もあり、CISPR で明確に規定しようという動きがある。

- (3) CISPR バンコク会議の審議結果をまとめた、電波利用環境委員会報告(案)及びその概要について、藤原主査より資料 10-3-1 及び資料 10-3-2 に基づき説明があり、承認された。また本報告を平成 25 年 1 月 25 日(金)の情報通信審議会情報通信技術分科会にて報告することについて説明があった。
- (4) 議事のその他として、事務局から IEC の各技術委員会及び小委員会の議長の任期の延長制限案への対処方針案について、資料 10-4 に基づき説明があった。意見がある場合は 12 月 19 日(水)までに事務局あて連絡することとなった。
- (5) その他の事項として、事務局から CISPR B 作業班の主任代理に電力中央研究所の田辺氏が就任することが紹介された。
- (6) 平成 25 年 1 月 5 日をもって、藤原主査が専門委員を退任されることが事務局より説明があり、藤原主査より主査及び専門委員退任に際してコメントを頂いた。
- (7) 次回会合のスケジュールについては、詳細は別途事務局から連絡する旨の説明があった。

**【配付資料】**

- 資料 10－1 電波利用環境委員会（第9回）議事要旨（案）
- 資料 10－2 CISPR バンコク会議 審議結果
- 資料 10－3－1 電波利用環境委員会報告概要（案）
- 資料 10－3－2 電波利用環境委員会報告（案）
- 資料 10－4 SMB/ahG 44 「TC/SC 議長任期」会議報告及び対処方針案